

柴田町新図書館基本構想

ビジョン 参考事例

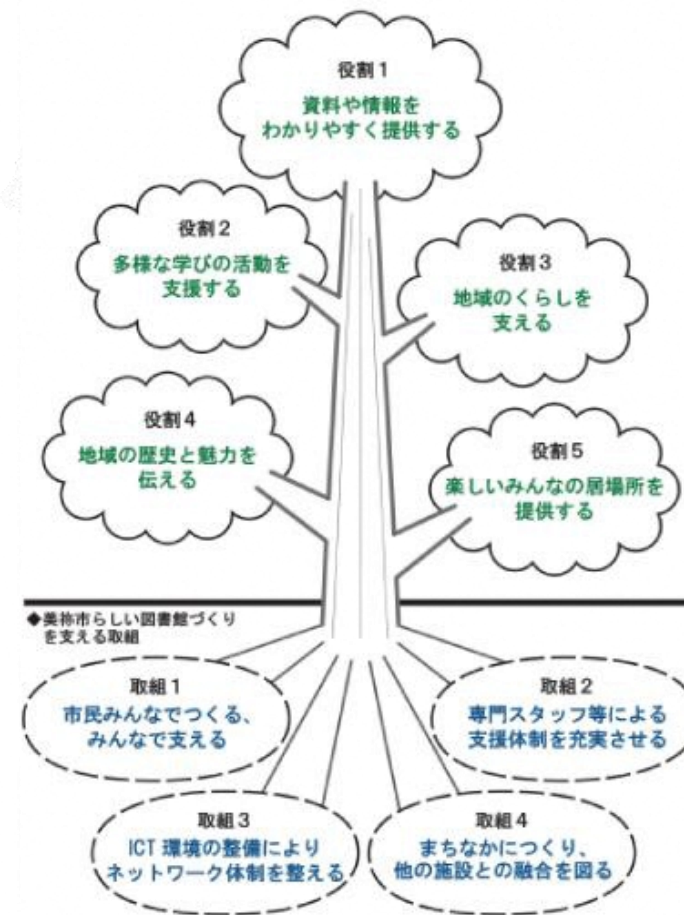
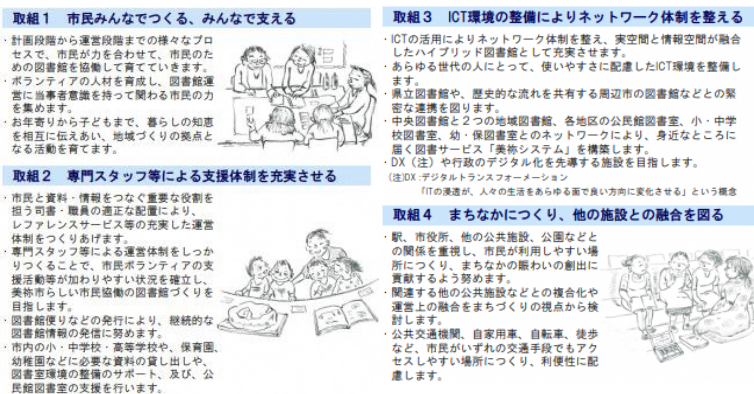
1) 美祢市立図書館基本構想

2021年11月策定 美祢市教育委員会

基本理念

歴史(むかし)をたずね、現在(いま)を知り、未来(あした)を育む、わたしたちの「ひろば」

基本理念を実現するために**5つの役割**と**4つの取り組み**を取り決めている。**木をモチーフとした構成図**にすることで、新しい図書館の役割を果たすために4つの取り組みが重要であるということが図で分かりやすく表現されている。

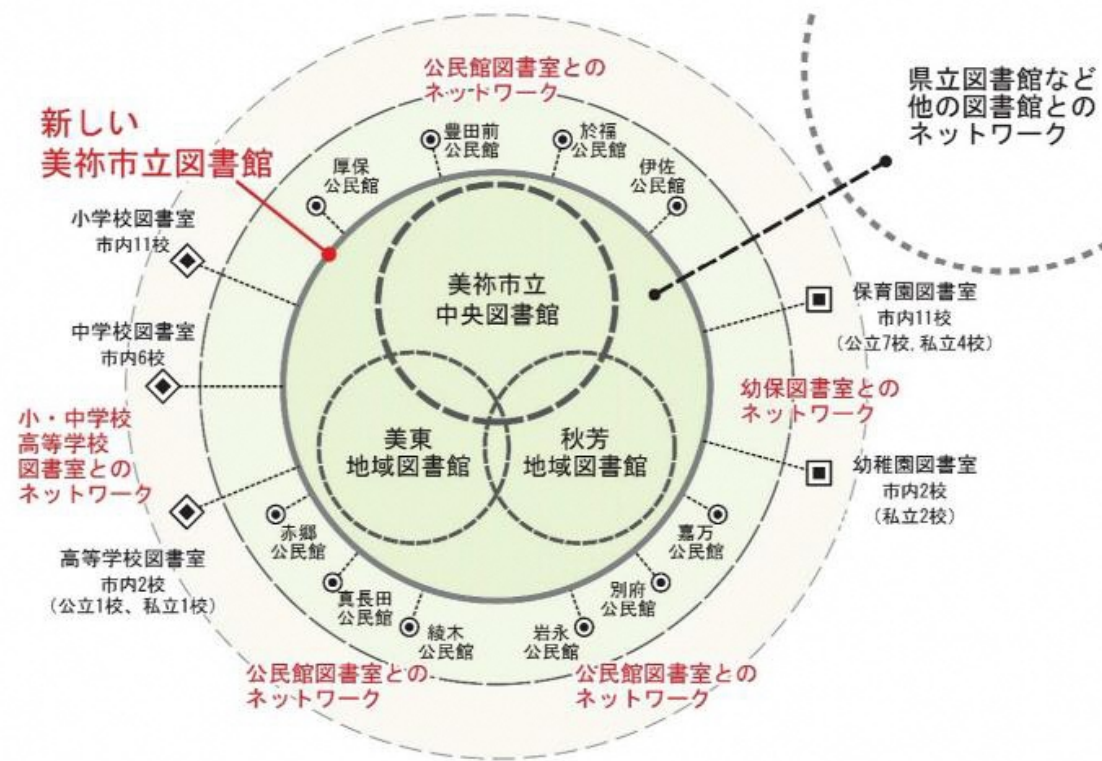


美祢市ではこれまで3館体制で図書館の運営を行っていたが、今後は美祢図書館が中央図書館の役割を果たし、3館や他の図書館とのネットワークを形成する「美祢システム」を構想している。

新図書館の利用イメージ

- ・ 中央・地域図書館間で本の貸し借りの連携
- ・ 0歳児検診時に絵本の提供、絵本の読み聞かせイベント、図書空間の近くにカフェ
→子育て世代への支援
- ・ レファレンスの充実
- ・ 県や保育園等、他の施設との連携
- ・ 新刊のリクエスト

等



2) 前橋市立図書館新本館基本構想

2022年4月策定 前橋市教育委員会

ビジョン

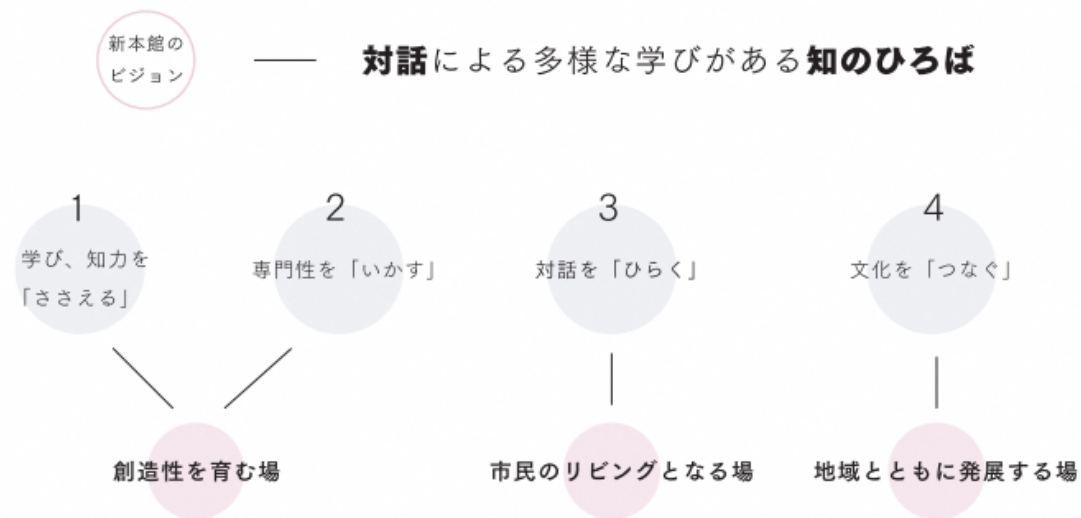
対話による多様な学びがある知のひろば

図書館を「本や他者との対話を促し、多様な声に耳を傾ける場所」と定義しており、**利用者の要求に柔軟に答えられる広場のような場所**を目指す。

市民との対話の場として「学生」「司書」「建築」の3テーマでワークショップを開催

キーワード

文化のハブ、リアルとデジタル、収集と共有、一人でもできることとみんなでもできること
ユニバーサルデザイン、50年後も寄り添える図書館、自由を持たせる、平和に過ごせる場所
地域とのつながりや愛着、多様性、専門性、対話、集う



2019年6月 読書バリアフリー法 施行、前橋市における外国人人口の増加
→障がいや言語など多様性を尊重した図書館づくり

新図書館の基本方針と取り組み

①学び、知力を「支える」—子どもの読書スペース、読み聞かせ、館外での読書普及活動

②専門性を「いかす」—図書館員の人材育成、司書と学芸員の連携により市の財産を利用者と共有する

③対話を「ひらく」—案内表示や利用説明の多言語化、外国語図書の充実、ユニバーサルデザイン、交流スペースの設置、カフェなど立ち寄りやすい空間の併設

④文化を「つなぐ」—周辺の文化施設との連携、図書館運営サポーター制度、分館や他館とのネットワーク強化

中心市街地に位置する新本館は、実際の本や資料を開くことによって、本と人との対話を生み、知的
好奇心を刺激する場所であること、多様な人が交流できる新たな出会いの場となることを目指します。

① 多様な人たちの交流の場となる

いつでも必要な情報が届く本に囲まれた空間であり、文化や言語、障がい、年齢、立場などの違いを超えて、利用者にかかれた場所であればなりません。

さまざまな事情で日頃不自由さを感じている人でも安心して心地よく過ごせ、読書を楽しみながら自由な発想を育むことができる環境であることを目指します。

② 文化を身近に感じる仕組みをつくる

市民の自主的な創作活動やコミュニティ活動支援の場としてのフリースペースなど、市民の知識や能力を発揮できる場としても機能します。

また、カフェなどの誰もが気軽に立ち寄れる空間を併設し、ふらっと立ち寄った人が他者と出会い、芸術表現に触れ、本を手にするすることで知的好奇心を刺激する環境を作ります。

主な 取り組み

- 市民の創作活動の発表の場として交流スペースを設置
- 案内表示や利用説明の多言語化
- 外国語図書の充実
- 利用者が司書などの図書館スタッフとも気軽に対話できる環境づくり
- ユニバーサルデザインに特化した設備や機能を整える
- カフェなどの誰でも訪れやすく親しみやすい空間を併設する

3) 豊中市 (仮称) 中央図書館基本構想

2021年2月策定 豊中市教育委員会

コンセプト

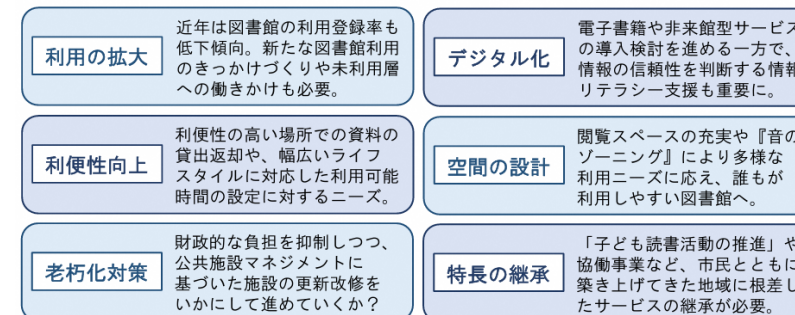
つながる。わたしの図書館で。

豊中市立図書館の特色

- ①子ども読書活動の推進…おはなし会、子育てサロン、乳幼児サービスなど
- ②市民・活動団体とともに歩む…市民ボランティア、図書館サポーター制度
- ③団体貸出…学校・放課後こどもクラブ・福祉施設等への貸出
- ④レファレンスサービスと情報発信…全国のレファレンス事例をインターネット等で提供、自然災害等の情報収集
- ⑤課題解決の取組み…「医療・健康情報」「多文化共生」「ビジネス・就労」「子育て・DV」4つの各テーマの講座の実施
- ⑥豊中市立図書館評価システム…図書館サービスの向上、地域との情報共有

豊中市立図書館の現状分析

<豊中市立図書館の現状を考えるキーワード>



【 現状分析に基づく課題のまとめ 】

- (1) **これからの時代に求められる図書館へ**
課題解決・交流の場としての活用やデジタル化社会に対応したサービスの提供
- (2) **情報へのアクセスを支える**
幅広いライフスタイルやニーズに応じた手段と媒体による資料・情報提供
- (3) **財政状況をふまえた施設老朽化への対応**
財政負担の軽減・平準化とより良いサービスの両立

豊中市立図書館の基本方針

<基本コンセプトと3つの基本方針>

つながる。わたしの図書館で。

(基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ ～図書館の多様な利用を提案～
 (基本方針2) 知や情報と**つなげる** ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～
 (基本方針3) 未来へ**つなぐ** ～持続可能な組織の構築～

<基本方針を推進するための取組みや蔵書の方針>

取組みサービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 読書バリアフリーの推進を見据えた電子書籍等の導入 ● 図書館に行かなくても利用できるサービスの充実 ● 市民・地域活動の支援を行うとともに新たなつながりを創出 ● 『小・中学校におけるICTを活用した「学び」の基本方針』の推進支援
施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央図書館を中心とした新たな図書館網を構築 ● サービスポイント（予約資料の受取返却場所）を新設し利便性向上
蔵書	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の「豊中市立図書館全体で蔵書100万冊」をベースとする ● 蔵書に関する業務の一元化やレファレンスコレクションの集約化

4) 小松市未来型図書館基本構想

2023年3月策定 小松市未来型図書館づくり推進チーム

ビジョン

こまつを編む。こまつを巡らす。

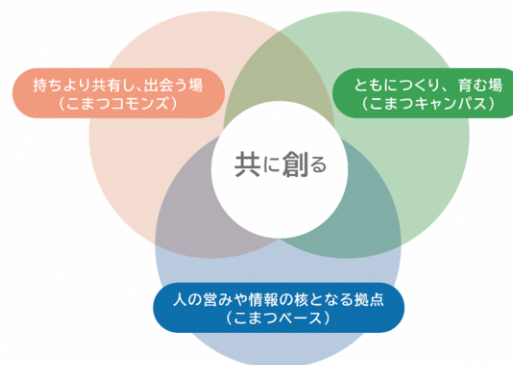
—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

コンセプト

人の営みや情報の核となる拠点 (こまつベース)

持ちより共有し、出会う場 (こまつコモンズ)

ともにづくり、育む場 (こまつキャンパス)



■ 「こまつを編む。」

まちの中にある多様な資源を結びつけ、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく様を意味します。

■ 「こまつを巡らす。」

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく様を意味します。

また、まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」の3つの要素を「編む」「巡らす」対象として捉えます。



多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していきます。



多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら、関係性を強くし、つながりを生み出していきます。



まちの歴史のなかにある資源(ヒト・モノ・コト・場所)を掘り起こし、未来へつないでいきます。

■ 人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)の個々の特徴を活かしながら結び付け、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

■ 持ちより共有し、出会う場(こまつコモンズ)

人々が、得意なことや悩み等、様々なことを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、やりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

■ ともにづくり、育む場(こまつキャンパス)

多様な人が関わり合いながらつくり、人やまちを育てていく場です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

施設が担っていく3つのコンセプトは相互に作用し融合している関係を表している。

互いに重なり合い、補い合いながら各要素が持つ役割を発揮することでビジョンの実現を目指す。

3つの要素が重なり合った中心には、「ともにつくる図書館をつくる」のテーマのもと、「共に創る」を据えている。



※各機能は、複数のコンセプトに位置付けられる場合があります。

未来型図書館に必要と考えられる役割（機能）

<p>知の集積</p>  <p>ex. 図書館等</p> <p>多様な情報（紙の資料に限らず、地域に存在するヒト・モノ・コト等も含む）が収集・蓄積されます。必要な情報をつなぎ、情報へのアクセスを支援する役割も担います。デジタルな情報と合わせて、地域資源が可視化・活用されます。</p>	<p>「個」の活動</p>  <p>ex. 学習スペース、一人で居られるスペース等</p> <p>個人が自由に活動を行える場が確保されています。設備が整っており、集中して情報と向き合うことができます。</p>	<p>体験の共有・交流</p>  <p>ex. 多目的室(会議・講演会・展示室)、カフェ、オープンキッチン、テラス等</p> <p>自由な利用・活動が行えるオープンな場が存在し、イベント開催など体験の共有を通して交流が生み出されます。</p>	<p>活動支援</p>  <p>ex. 市民活動サポート、ビジネス支援等</p> <p>市民活動サポートやビジネス支援等を通して、市民が何かを始めるための出会いやきっかけの場となります。また、人や団体をつなぐコーディネートにより、活動を支え、後押ししていきます。</p>
<p>くつろぎ・居場所</p>  <p>ex. 開放的な空間、フリースペース等</p> <p>開放的な雰囲気やゆったりとした時間を過ごせる環境です。目的のあるなしに関わらず、安心してそこに居ることができます。</p>	<p>施設・地域連携</p>  <p>ex. 学校連携支援等</p> <p>美術館や博物館等の文化施設や学校、商店街等の地域との連携を図り、地域学習の実践としての学びのプログラムの運用など相乗効果を発揮する仕組みをともに創っていきます。</p>	<p>子育て支援</p>  <p>ex. 屋内あそび場、預かりルーム等</p> <p>子どもが安心して遊び・学ぶことができる場があることで、子どもの健やかな育ちとともに、親同士の交流を生み出し、子育てを支えていきます。</p>	<p>創造</p>  <p>ex. 作業スペース、スタジオ(演奏・ダンス)等</p> <p>ものづくり、イベントや事業等、新たなモノやコトを生み出していくことができる場が存在し、新しい情報を取り入れ、スキルを身に付けたりすることができます。</p>
<p>知・文化の共有</p>  <p>ex. 多文化交流スペース、貸し本棚等</p> <p>多様な人々が、自らの知識や文化を持ち寄り、共有しながら互いに学び合うことができます。</p>	<p>地域の歴史文化の集積・編集</p>  <p>ex. 博物館、ミュージアム等</p> <p>文化財や美術作品等のまちの文化や歴史、市民の活動等の地域資源を集積し、それらを編集しながら未来へとつなげていきます。</p>	<p>発信・表現</p>  <p>ex. ホール・ギャラリー等</p> <p>演奏や絵画、ダンス等、様々なかたちで自らを表現し、発信することができます。また、地域の情報の発信拠点としての役割も持ちます。</p>	<p>共創</p>  <p>ex. リビングラボ、市民協働プロジェクト等</p> <p>市民や団体、事業者、行政等、多様なステークホルダーが主体的につながり、対話を重ねることで、新たなコトを起こしたり、地域課題の解決の場へと発展していきます。</p>

※機能の具体例は、複数のコンセプト・機能に位置付けられる場合があります。

5) 新富谷市民図書館整備基本構想

2017年策定 富谷市

理念

歴史を受け継ぎ、未来をつくる市民の、市民による、市民のための知の広場

- ・歴史を受け継ぎ→2020年に開宿400年を迎えた「奥州街道宿場町」
- ・市民による市民のための図書館→**図書館の整備や開館後の運営も市民と協働で行う**

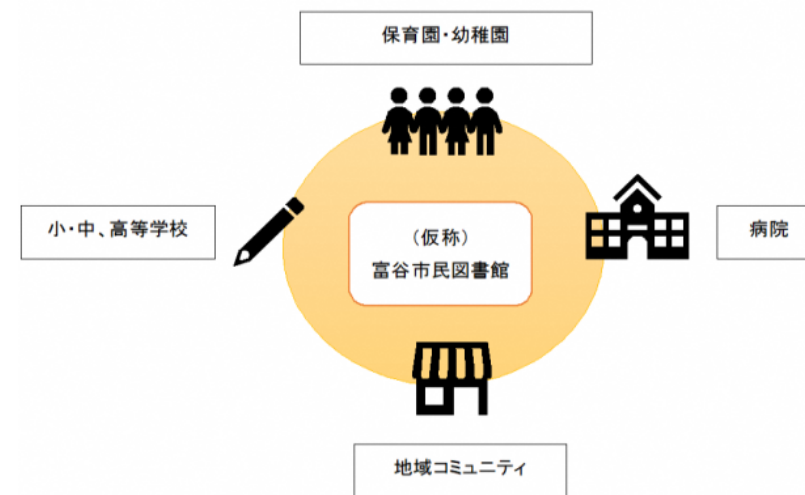
センター館を中心に、富谷市内の他の公民館と連携をはかる。

学校や施設、黒川郡内の図書館類似施設や県内の他の図書館とも連携

- ・人が動く→各図書館のコレクションや空間に特色をもたせ、すべての図書館を巡りたくなる仕組みとする。
- ・本が動く→本の配送回数を増やす。県図書館とも連携し、富谷市民図書館ネットワークにない資料も貸出しできるようにする。
- ・人が動き、本が動く→自宅や近隣施設への本の宅配サービス

基本方針

- 1. 生涯を通じた学びを提供する場所**
生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことで、一人ひとりの潜在能力を最大限伸ばしていく機会を提供します。また、さまざまな世代と一緒に学び合う機会を通じて、「知」の循環が生み出される場所としても機能していきます。
- 2. 富谷市での暮らしを豊かにする場所**
富谷市での暮らしを豊かにするための情報や、課題を抱えている人には、その解決につながるような情報を提供していきます。
- 3. 子どもの成長を応援する場所**
富谷市は、子どもに投資していきます。子どもが、言葉を学び、表現力や創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできない読書の環境を整えます。また、保護者に対して、子育てのために必要な情報や空間を提供します。
- 4. 文化・芸術との出会いを生む場所**
富谷市で行われているマーチングバンドの活動や「富谷の田植踊」などの伝統芸能等、市民が文化・芸術に触れ、自らが表現をしていくための支援を行います。
- 5. コミュニティづくりの場所**
一人ひとりの居場所であり、知り合いをつくることのできる、コミュニティづくりの場所として機能します。富谷市で暮らすすべての人たちの受け皿として機能していきます。
- 6. 富谷市の魅力を発見する場所**
田園都市として整備が進む地区もあれば、奥州街道の宿場町が存在する、新・旧交わる富谷市だからその魅力を発見し、その魅力を、市民自らが発信する拠点として機能していきます。



機能・サービス案

- ・利用者カード→在住・在勤・在学に加え、市への定住を考えている人、故郷に戻りたいと考える出身者、出張や観光で市へ頻繁に来ている人への発行
- ・資料→本だけでなく子どもの遊び道具や介護用品等、市の活性化や生活向上のために有効なものの貸出し
- ・地域資料→市の発展史の記録、マーチングバンドや伝承舞踊等の市民活動(紙だけでなく動画資料も残す)、まちの様子(ドローン撮影、ウェブから視聴できるよう検討)
- ・市民による新たな知的創造活動→図書館のウェブサイト上に富谷市の写真を投稿できるページを作成する。写真撮影のための講習やワークショップを行う。地元のお年寄り・文化人へのインタビュー動画を図書館で編集・保存する。
- ・市のイベントへのお出張サービス→とみや国際スイーツ博覧会では富谷市のスイーツにまつわるパネル展示、お菓子作りの本、スイーツマップ等の関連資料を揃える。

